

平成27年度 子ども大学はにゅう 学習の記録

～ 子ども大学はにゅう学習の記録 ～

1日目：9月12日（土曜日）

2日目：10月17日（土曜日）

3日目：11月28日（土曜日）

4日目：12月19日（土曜日）

1日目：2015年9月12日（土曜日） 埼玉純真短期大学

時間	内容	講師	会場
午前9:00～9:30	入学式		埼玉純真短期大学
午前9:45～10:30	友達作るのむずかしい？ けっこう楽しいよ	高橋 努先生 (埼玉純真短期大学)	
午前10:45～11:30	金属を溶かして、自分だけのメダルを作ろう！	小日向 千秋先生 (埼玉純真短期大学)	

○入学式

第5期の「子ども大学はにゅう」は4年生6名、5年生9名、6年生13名の計28名でスタートしました。

入学式は、埼玉純真短期大学のマナー実践室で開かれました。緊張した様子の学生も見られましたが、6年生の子どもたちの中には、一昨年、昨年に続いて3年目の参加となる学生もいて、すっかりキャンパスにも慣れてる様子でした。



○開式のことば

埼玉純真短期大学の伊藤道雄先生の開式のことばで入学式が始まりました。司会は、埼玉純真短期大学1年生の学生が務めました。



○あいさつ

藤田利久学長（埼玉純真短期大学学長）、小島敏之副学長（羽生市教育委員会教育長）から新入生に向けて、ご挨拶をいただきました。新入生たちは、とても真剣な表情で学長、副学長の言葉に耳を傾けていました。



○記念品贈呈、学生代表のこぼ

「子ども大学はにゅう」への入学を記念して、記念品の贈呈が行われました。記念品として、学習ファイル、手提げバッグ、クリアファイル、鉛筆、蛍光ペン、メモ帳が学生の皆さんへ贈呈されました。入学生を代表して、関根綺星（せきね きらら）さんが藤田学長から記念品を受け取りました。入学生の皆さん、ぜひ今後の学習に活用してください。

また、子ども大学はにゅう5期生を代表して、阿久津尚大（あくつ なおひろ）さんが、学生代表のこぼを述べ、「子ども大学はにゅう」への抱負を堂々とした様子で語ってくれました。



○グループの役割決め

入学式終了後は、グループで役割を決めました。第5期「子ども大学はにゅう」の4回の活動を一緒にしていくグループになります。4～6年生までのメンバーが混ざったグループで、初めて会う学生もいて、緊張した様子でしたが、羽生市青少年相談員の皆さんに協力していただきながら、それぞれのグループごとにリーダー、副

リーダー、感想係、発表係を決めることができました。



○1 限目：「友達作るのむずかしい？ けっこう楽しいよ」

教室を移動して、さっそく1限目の授業が始まりました。「子ども大学はにゅう」第5期最初の授業は、埼玉純真短期大学の高橋努先生による「友達作るのむずかしい？ けっこう楽しいよ」でした。

まず最初は、「バースデー・チェーン」という活動（グループの中で誕生日順に並ぶこと）から始まりました。まだ初めて顔を合わせてから間もない子どもたちが多く、緊張しながらお互いの誕生日を伝え、順番に並んで座って自己紹介をしました。



自己紹介後には、グループメンバーの人数と同じ7枚の用紙を使って、できるだけ高いタワーを作ることに挑戦しました。折り方や重ね方は自由に考えてよいので、グループのメンバー同士で相談しながら、できるだけ高くする方法を一生懸命に考えていました。できあがったタワーは、1分間くずれないことを確認してその高さが認められます。真剣な表情でタワーを見つめ、1分間が過ぎると大喜びし、くずれてしまうとがっかりし、そうした中でメンバー同士がすっかり仲良くなっていきました。また、早くできあがったグループでは、今度は折り方を変えてユニークなタワー作りに挑戦してみるなど、さらに自分たちで工夫しながら積極的にタワー作りを楽しんでいる様子も見られました。



○2 限目：「金属を溶かして、自分だけのメダルを作ろう！」

2 限目は、埼玉純真短期大学の小日向先生による「金属を溶かして、自分だけのメダルを作ろう！」の授業が行われました。低い温度で溶ける金属を使って、自分のデザインしたメダルを作ります。まずは、先生から作り方の説明を聞き、デザイン画にとりかかりました。集中して、自分のイニシャルや好きな模様をデザインしていきます。



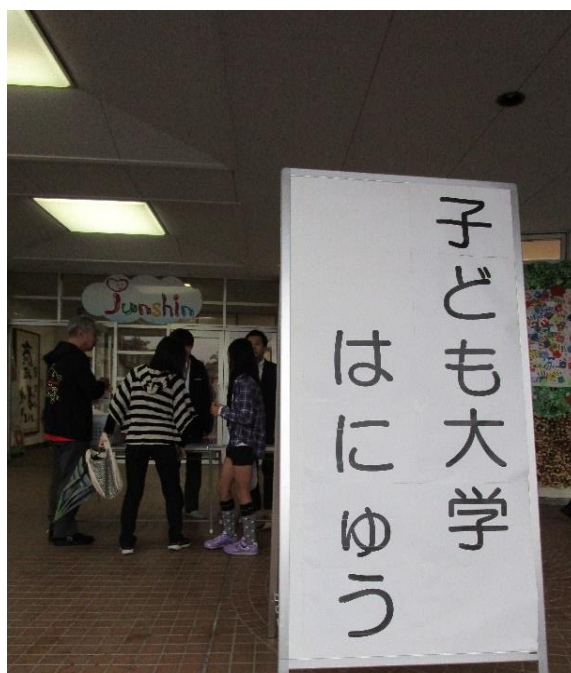
デザイン画が完成したら、ハサミとカッターできれいに切り抜いていきます。それを紙コップの底に貼り、溶かした金属を流し込んで冷やせば出来上がりです。出来上がった自分だけのメダルを眺めて、とても満足そうな様子でした。



2日目：2015年10月17日（土曜日） 埼玉純真短期大学

時間	内容	講師	会場
午前9:00～9:40	角帽を作ろう	羽生市青少年相談員の皆さん	埼玉純真短期大学
午前9:50～10:30	私も先生 絵本の読み聞かせに挑戦しよう	細田 香織先生 (埼玉純真短期大学)	
午前10:40～11:30	猫もフワフワ 犬もフワフワ みんなフワフワ大空へ	牛込 彰彦先生 (埼玉純真短期大学)	

本日、子ども大学はにゅうの2日目が行われ、9月に入学した学生の皆さんが元気に登校してきました。羽生市青少年相談員の皆さんによる「角帽を作ろう」、埼玉純真短期大学の細田先生による「私も先生 絵本の読み聞かせに挑戦しよう」、埼玉純真短期大学の牛込先生による「猫もフワフワ 犬もフワフワ みんなフワフワ大空へ」の3時間の授業が行われました。



01 限目：「角帽を作ろう」

1限目の「角帽を作ろう」（羽生市青少年相談員6名の先生）では、卒業式にかぶる角帽を手づくりしました。黒い板と用紙をくるくる丸めたり、切り込みを入れて貼り付けたり、ときには工作用ボンドがうまくつかなくて苦労をしている様子も見られましたが、素敵な角帽ができあがりました。





○2 限目：私も先生 絵本の読み聞かせに挑戦しよう

2限目の「私も先生 絵本の読み聞かせに挑戦しよう」(本学 細田先生)では、まず細田先生が絵本『やさいのおなか』(きうちかつ さく・え)の読み聞かせをしてくださり、絵本の野菜の断面を描いた絵から、それが何の野菜かをみんなで考えました。次々と予想した野菜の名前が挙げられ、笑顔でとても楽しそうな様子が見られました。学生の皆さんにとって、絵本の楽しさを再発見する機会になったようです。

その後、読み聞かせをするときのポイントを細田先生から教えてもらい、実際に自分の好きな絵本を選んで、グループでお互いに読み聞かせを行いました。教えてもらった読み聞かせのポイントに気をつけながら一生懸命に読んで、絵本の楽しさをグループのメンバーと共有している様子が伝わってきました。



○3 限目：猫もフワフワ 犬もフワフワ みんなフワフワ大空へ

3限目の「猫もフワフワ 犬もフワフワ みんなフワフワ大空へ」(本学 牛込先生)では、まずビニール袋を飛ばすにはどうしたらよいかをみんなで考えました。各グループで話し合った結果、学生の皆さんからは気球のように空気を温めて飛ばす方法やヘリウムガスを使って飛ばす方法などが提案され、実際にその方法でうまく飛ぶのかを体験してみました。

ロウソクを使って空気を温める方法では、各グループの描いた猫やキャラクターのついたビニール袋が見事に天井高くまで飛んでいき、歓声があがりました。ヘリウムガスを使う方法では、ヘリウムガスの入った風船にそれぞれ動物を書き、足をつけ、実際にフワフワと飛ぶ様子を楽しみました。



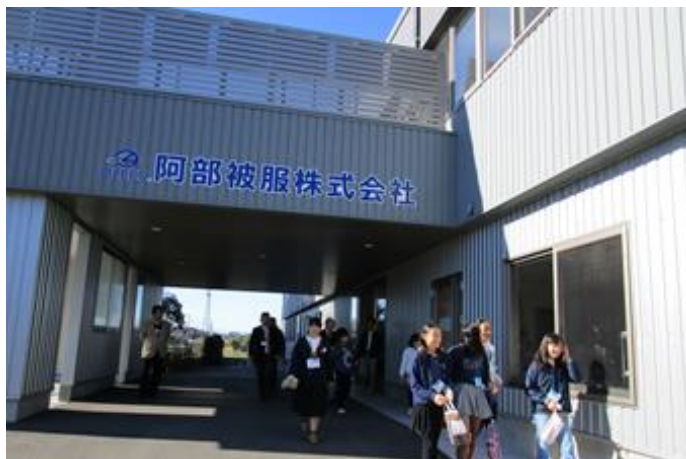
子ども大学2日目も、学生の皆さんにとって、とても充実した時間になったようです。

また、当日は本学の純真祭（学園祭）が行われており、ぜひ本学の学園祭も楽しんでほしいということで、子ども大学の学生には模擬店で使用できる500円分のチケットが配布されました。子ども大学の授業終了後、模擬店を周りながら楽しんでいる子ども大学の学生たちの姿も見られました。

3日目：2015年11月28日（土曜日） 阿部被服株式会社

時間	内容	講師	会場
午前10:00～11:30	はにゅうの産業と歴史を知ろう②	阿部被服株式会社の皆さん (羽生ロータリークラブ)	阿部被服株式会社

本日、「子ども大学はにゅう」3回目の授業が行われました。3回目の授業は、羽生市ロータリークラブに「羽生の産業と文化の歴史」の講座をお願いし、昨年続く「はにゅうの産業と歴史を知ろう②」として、今年はロータリークラブ会員の阿部被服株式会社さんで講座を開いていただきました。まず最初に、子ども大学学長の藤田利久先生、子ども大学はにゅう実行委員長の伊藤先生からお話がありました。また、この日は羽生市ロータリークラブから小暮ゴムの小暮社長も参加してくださいました。



○「はにゅうの産業と歴史を知ろう②」

最初に、阿部被服株式会社の阿部弘一社長から、被服産業が盛んであった羽生市の歴史と会社の歴史についてお話がありました。羽生市は昔から被服産業が盛んで、今よりさらにたくさんの会社があり、羽生駅を利用して会社に通う人もとても多かったそうです。阿部被服株式会社さんは、昭和32年4月に創業し約60年の歴史がある会社で、40名以上の方がお仕事をされています。保育園や幼稚園、小学校、中学校、高校で使う運動用のジャージやユニフォームなどもたくさん作っておられ、とても身近に感じられる会社です。服の作り方は時代とともに変わってきていて、現在ではコンピュータや最新式の機を使っの服作りが行われているとのお話に、参加者全員がこのあとの見学がとても楽しみに became.

この日は土曜日でしたが、子ども大学はにゅうの学生たちのために、会社で働く皆さんが特別に土曜日に出勤してお仕事の様子を見せてくださいました。





まず最初に見学させていただいたのは、「昇華転写」という方法でユニフォームを作っている様子でした。特殊な紙にユニフォームの色と模様が描かれており、それを白い布にのせて高温でプレスすると、あっという間にユニフォームの模様が布に描かれています。布をさわっても色は移りませんし、布はとてもサラサラです。学生のみんも興味津々の様子で布にふれていました。この作業をする前には、布に糸ひとつつかないように社員の方がきれいにし、しっかり布に模様が写るように注意を払って整えていました。とても気を遣う作業です。



その次には、布に印刷されたユニフォームをその型どおりに切る作業です。これもコンピューターと機械がやっています。模様を読み取り、あっという間にその型どおりにきれいに切ってしまう様子に、みんな機械の動きを見つめ、切り抜かれたユニフォームの布を見て感嘆の声をあげていました。



次に、縫製の作業やゴム入れの作業、ネーム入れ、袋詰め、検品の作業と、洋服が出来上がるまでの過程を見せていただきました。服を縫い合わせ、ポケットを付けたり、ゴムを入れたり、たくさんの過程を経て、私たちが着ているジャージやユニフォームが出来上がっているのを学生のみみんなも感じたようでした。そして、袋詰めや最後の検品の作業までとても丁寧なお仕事がされていました。会社で働く皆さんは、とても難しそうに見える作業をととても素早く仕上げていきます。経験を重ねていくことがとても大切なお仕事であることも感じました。

阿部被服株式会社さんでは、あいさつ、整理整頓、そうじなどをとても大切にされているそうです。糸や布を扱う作業が多いため、その切れ端などが落ちていても不思議ではない環境ですが、作業場や会社全体がとてもきれいなことに驚かされました。迎えてくれた会社の皆さんの対応もとてもあたたかく、気持ちのよい挨拶の声をたくさんかけてくださいました。仕事を丁寧に仕上げていくためには、こうした普段からの姿勢がとても大切なことを実感した今回の見学でした。

そして、最後には、阿部社長から素敵なプレゼントがありました。学生それぞれのサイズに合わせて作られた子ども大学はにゅうのロゴ入りTシャツをプレゼントしていただいて、学生みんなとても喜んでいました。





最後のまとめの時間には、いつも以上に熱心にアンケートを書いている姿が見られ、今回の見学でいろいろなことを感じたことが伝わってきました。実際に働いている社員の皆さんの姿や最新式の機械にふれて、技術力のすばらしさや日頃自分たちが使っている服が多くの人たちの努力を経てやってくることを実感した様子でした。学生たちの住んでいる羽生市の産業を知り、働くことへの理解が深まる充実した学びになったようです。



4日目：2015年12月19日（土曜日） 埼玉純真短期大学

時間	内容	講師	会場
午前9:00～10:00	“紙”とんぼの科学 紙とんぼはどうして飛ぶのか	小森 洋先生 (科学クラブ彩ネット)	埼玉純真短期大学
午前10:10～10:40	学習のまとめ	牛込 彰彦先生 (埼玉純真短期大学)	
午前10:50～11:30	修了式		

本日、子ども大学はにゅうの4日目が行われ、4回目の授業の後、修了式が行われ、9月に入学した学生の皆さんが卒業を迎えました。4回目の授業では、「紙」とんぼの科学 紙とんぼはどうして飛ぶのか」「学習のまとめ」の2つが行われました。

01 限目：「紙」とんぼの科学 紙とんぼはどうして飛ぶのか

1限目の「紙」とんぼの科学 紙とんぼはどうして飛ぶのか（科学クラブ彩ネット 小森先生）では、竹とんぼに形は似ていますが紙でできている紙とんぼを作りました。小森先生に教えていただきながら、型紙をきれいにハサミで切り抜き、錐を使って穴を開けたり、接着剤で貼り付けたものをじっと待ったり、難しい作業や我慢強さが求められる作業も多くありましたが、学生の皆さんはとても集中して作っていました。



そして、小森先生から紙とんぼの上手な飛ばし方を教えていただき、できあがった紙とんぼを実際に飛ばしてみましたが、教室の高い天井にぶつかるくらいに高くきれいに飛んでいく紙とんぼにあちこちから歓声があがりました。その後、紙とんぼ作りをがんばった学生の皆さんへ、小森先生がもう一つ“ひらひらと舞うリボン”を教えてくださいました。薄い発砲スチロールでできたりボンがくるくる、ひらひらと舞っていく様子はとても不思議で、学生たちも何度も飛ばして楽しそうに見ていました。



○2 限目：「学習のまとめ」

2 限目の「学習のまとめ」(本学 牛込先生)では、これまでの4回の授業で行われてきた「友達作るのむずかしい? けっこう楽しいよ」「金属を溶かして、自分だけのメダルを作ろう!」「角帽を作ろう」「私も先生 絵本の読み聞かせに挑戦しよう」「猫もフワフワ 犬もフワフワ みんなフワフワ大空へ」「はにゅうの産業と歴史を知ろう②」「“紙”とんぼの科学 紙とんぼはどうして飛ぶのか」を振り返り、まとめの作業をしました。これまでも授業が終わるごとに宿題として自分で作っていた“学習のまとめ”の用紙に4回目の授業の感想を加え、自分の“学習のまとめ”を完成させました。絵が描かれていたり、たくさんの文章で説明してくれていたり、それぞれに工夫された“学習のまとめ”ができあがりました。その後、これまでずっと一緒に活動してきた1~4班の班ごとに各自のまとめを発表しあい、修了式前に行われる学習発表会の練習を行いました。自分の“学習のまとめ”を見せながら、印象に残った学習の感想を発表する練習に、学生それぞれが一生懸命取り組んでいました。



○学習発表会

2限目の終了後、修了式の会場に移動して、班ごとに学習の成果を発表する「学習発表会」が行われました。学長、副学長、来賓の方、保護者の方、学生、スタッフと大勢が見ている前での発表にとっても緊張している様子も見られましたが、班長さんの進行のもと、どの班の学生も自分の感想をととても立派に発表していました。学生の皆さんの成長した姿が感じられる発表でした。



○修了式

修了式は、子ども大学はにゅう実行委員会の伊藤委員長の開会のことばで始まりました。司会は、埼玉純真短期大学2年生の学生が務めました。



○修了証書授与

子どもたちは自分で作った角帽をかぶり、子ども大学はにゅうの藤田学長から一人ひとり修了証書を受け取りました。



○学長賞授与

子ども大学はにゅうに小学校4年生から小学校6年生までの3年間継続して参加した6人の学生に学長賞が授与され、小島副学長から記念品が渡されました。

○あいさつ

子ども大学はにゅうの藤田学長、小島副学長から、学生の皆さんのこれからの挑戦を激励するあいさつの言葉をいただきました。



○学生代表のことば

学生を代表して、子ども大学はにゅうに3年間通ってきた小学6年生の児童が「学生代表のことば」を述べてくれました。これまでの子ども大学はにゅうでの経験を振り返り、今後に向けた抱負をたくさん聞くことができました。



修了式終了後に、班ごとに記念写真の撮影を行いました。角帽をかぶり、とても大学生らしい素敵な姿が見られました。

